

令和7年度 大島地区教育推進プラン

【本地区の特性】

- 奄美群島日本復帰72周年を迎える。有為な人材を数多く輩出し、「人材の島」「教育の島」と謳われている。
- 多数の小規模校や複式学級を有している。保護者や地域住民は、教育に対する関心が高く、学校に寄せる期待が大きい。
- 世界自然遺産にも登録された豊かな自然が残されており、文化財・天然記念物なども多く、方言や伝統芸能が大切に引き継がれている。
- 「結いの心」が受け継がれ、絆や助け合いを大切にする気風が残っている。
- 多くの若者が進学・就職のために、中学校卒業後や高等学校卒業後に島立ちをする。

【学校・園数、児童・生徒・教職員数】 ()は私立別掲

学 校 種	園・校 数
幼稚園・認定こども園	19(4)
小学校	80
中学校	45
高等学校	8(1)
特別支援学校	1

児童生徒数	8,435人	教職員数	1,336人
-------	--------	------	--------

令和7年4月7日現在

奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進 ～人権教育を全ての教育の根幹に～

到達数値目標

豊かな心と健やかな体 (主に「本県教育施策の方向性Ⅰ」に関連)	「確かな学力」の定着 (主に「本県教育施策の方向性Ⅱ」に関連)	開かれた信頼される学校づくり (主に「本県教育施策の方向性Ⅲ～Ⅴ」に関連)
1 人権尊重の理念のグランドデザインへの位置付け 小・中学校共に100% 2 読書運動の充実 小学校(100冊以上) 中学校(40冊以上) 3 いじめ問題への適切な対応 1件でも多く認知する。 3か月が経過した事案の解消率 小・中学校ともに100% 4 不登校の未然防止 新規不登校 0 小・中学校ともに100% 不登校在籍率の低減(前年度比) 5 体力・運動能力の向上 目標一下の種目をTスコア50以上に 小学生 中学生 男子 20mシャトルラン 上体起こし 女子 50m走 50m走 ※小…2,4～6年 中…1,2年平均 6 健康教育の充実 むし歯治療率 小(70%) 中(60%) 栄養教諭の活用 各学校1回以上	1 学力向上(R7鹿児島学力・学習状況調査CBT) 小学校 小・中学校ともに 中学校 全教科で県平均以上 2 一人一研究授業の確実な実施 Plantでの登録率 小・中学校ともに100% 研究授業の実施率 3 ICT活用 ICT機器(一人一台配備されたPC・タブレット等)の授業での活用(週4回以上) 小学校 小・中学校ともに100% 中学校 ※「教師が使って学ばせる」から「子供が使って学ぶ」活用を重視すること、そして、そのよさを実感できる取組。 4 特別支援教育 「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成(特別支援学級に在籍する児童生徒及び通級による指導を受けている児童生徒) 小学校 小・中学校ともに100% 中学校	1 地域人材を活用した自然・伝統文化的な体験活動の充実 年3回以上の実施率 小・中学校ともに100% 2 不祥事根絶に向けた服務指導の徹底 全職員で分担する服務研修の実施率 小・中学校ともに100% 3 学校の業務改善の推進 4 学校事務の適正化

大島地区学力向上プロジェクト

目標達成のための共通実践事項

1 心を育てる教育活動の充実 □ 「人権尊重の理念」を上位に位置付けた学校経営の推進 □ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う「特別の教科 道徳」の充実 □ とともに親しむ読書運動の充実 2 いじめ・不登校・問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応 □ 児童生徒の自尊感情・自己有用感の育成と望ましい学級集団・人間関係づくりを深めるための授業や活動の実施(魅力ある学校づくりの推進) □ 年5回以上の実態把握及び心情に寄り添った早期対応 □ 意図的・計画的な教育相談・働きかけ・支援の実施 3 体力・運動能力の向上 □ 「運動大好き」かごしまっ子”育成推進事業に基づく体力・運動能力の向上 □ 家庭・地域と連携した体力づくり 4 健康教育の充実、食育の推進 □ 現代的な健康課題への適切な対応 □ 学校教育全体を通じた食に関する指導の充実	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ―「大島モデル」の授業づくりの推進― 授業充実の3ポイントを踏まえた、児童生徒が自ら学びとする「質の高い授業」 【目標の明確化 山場の工夫 確かめ・見届け】 ※「確かめ・見届け」の充実を図る。 ※「書く」活動等(アウトプット)の充実を図る。 □ 学習者主体の授業づくり □ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 □ 諸学力調査の結果、かごしま学力向上支援Webシステム、演習問題の活用 □ 「学びの羅針盤」「大島の教育Pamphlet」の活用 2 家庭学習の充実「マイゴールチャレンジ」 □ 家庭学習の「質」「量」の充実 □ 家庭学習の主体的な「ゴール」設定 □ 授業と連動した内容の充実やICTを活用した方法の工夫改善 3 授業力向上を図る研修等の充実 4 教育の情報化の推進 □ 情報活用能力(情報モラルを含む)の育成 □ プログラミング教育及び遠隔・オンライン教育等の推進 □ 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けたタブレット端末等の活用充実 5 特別支援教育の充実 □ 全ての児童生徒のための環境づくり・授業づくり □ 個別の教育的ニーズに基づく支援の推進	1 奄美のよさを生かし、地域に開かれた学校づくりの推進 □ 地域学校協働活動の推進と積極的な人材活用 □ 学校評価と学校の教育活動の情報発信の工夫・充実 □ 島唄・島口、美ら島運動の充実 2 服務規律の厳正確保 □ 職責感や同僚性を高めるための「全職員で分担する服務研修」の実施 □ 個別服務指導強化期間(4・5月)の個別指導徹底 □ 不祥事防止強化月間(8月・12月)における「参加型・体験型を取り入れた服務研修」の実施 3 学校の業務改善の推進 □ 学校における業務改善への積極的な取組 4 学校事務の適正化 □ 実効性のある自主検査の徹底 □ 学校事務指導の充実 □ 事務職員研修の内容と開催方法の改善・充実
--	---	---

「学びの羅針盤」「生徒指導提要(令和4年12月)」「大島の教育Pamphlet改訂版」の活用及び「カリキュラムマネジメント」の実現

学校・家庭・地域が連携して取り組む三つの運動

「家庭学習マイゴールチャレンジ」「ともに親しむ読書運動」「島唄・島口、美ら島運動」

大島地区学力向上プロジェクト

本地区の学習指導に係る特色や課題

- ◆ 確かな学力の育成
特に、「自己肯定感」の高揚、「学びを調整する力」「自分の考えを表現(アウトプット)する力」の育成に課題
- ◆ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた日々の授業改善
特に、児童生徒の主体的な学び(課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと)や対話的な学び(話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすること)に課題
- ◆ 児童生徒の多様性を踏まえた学習指導・学習支援
ICTの活用による「個に応じた指導」の一層の推進、多様な学びの提供
- ◆ 郷土や地域の特色を生かした魅力ある授業づくり
奄美群島日本復帰・世界自然遺産等、地域素材の一層の活用

主な学力向上の取組

教育の情報化の推進

- 各教科・領域の内容に応じた情報活用能力の着実な育成
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けたICTの活用
- プログラミング教育及び遠隔・オンライン教育の推進

家庭学習の充実

- 「質の高い授業」の実現を支える「マイゴールチャレンジ」の推進
- 課題の内容の精選・方法の工夫(授業と連動した課題、不足している力を養う課題)

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

- 大島モデルの授業づくり・「学習者主体の授業づくり」の推進、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 諸学力調査(児童生徒質問紙等を含む)の結果、かごしま学力向上支援Webシステム、演習問題の活用
- 「学びの羅針盤」「大島の教育Pamphlet I(「大島モデル」の授業づくり)」の活用

～授業改善の根底は、「学習者主体」であるという意識改革～

校内研修の充実

- 「学習者主体の授業」実現プロジェクトの実施
- 地区指定研究協力校、校内研修支援の実施
- 一人一研究授業、法定研修の充実

カリキュラム・マネジメントの実現

- 各教科の特質を生かし、「学習者主体の授業」の実現に向けた教科等横断的な視点からの教育課程編成
- 学校全体における教育課程の実施状況の評価及び改善の徹底

【「大島モデル」の授業づくりの推進】

大島モデル…授業充実の3ポイントを踏まえた、児童生徒が自ら学びとる「質の高い授業」
「目標の明確化」、「山場の工夫」、「確かめ・見届け」

～授業デザイン(一単位時間)のポイント～

ポイント1【目標の明確化】 ゴール(児童生徒が身に付ける力)が明確な授業(開始10分以内の導入)

【目指す児童生徒の姿】 ゴールに向けて主体的に見通しをもつ児童生徒の姿

ポイント2【山場の工夫】 思考を深めるための学習活動や指導の工夫がある授業

【目指す児童生徒の姿】 見方・考え方を働かせ、使う道具や活動形態等を主体的に「選択・決定」し、学習に関する自己調整をしながら、ねばり強く知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしていたりしている児童生徒の姿

ポイント3【確かめ・見届け】 分かるようになった・できるようになった実感のある授業(ラスト10分間の充実)

【目指す児童生徒の姿】 主体的に自らの学びを振り返り、次時の学習につなぐ児童生徒の姿

～単元構想を大切に～

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、その実現を図る必要がある。